

モニタリングシート（院・児童学専攻）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況であるか。	点検・評価課題に対する向上・改善施策	前年度の向上・改善施策を踏まえ、専攻内 FD 研修等で、専攻内での問題意識の共有と課題の検討を行った。しかしながら、「定員充足率を上げる」という課題については改善に至っていない。大学院改組を視野に、同一研究科の他専攻の教員とも連携し、問題意識の共有と課題の検討をしながら、引き続き取り組みを進める。	特になし。	今年度の FD で関連するテーマの研修を実施する。（※FD 企画シート参照）
2	定員充足の状況はどのような状況か。	定員充足率データ	大学院改組を視野に、同一研究科の他専攻の教員とも連携し、問題意識の共有と課題の検討をしながら、定員充足へ向けた各種取り組みを継続していく。	定員未充足の状態である。	大学院改組を視野に、同研究科の他専攻の教員とも連携しながら、問題意識の共有と課題の検討定員充足の施策を進める。学部の改組作業部会等で、随時問題提起をしていく予定である。
3	DP・CP と関連したカリキュラムが適切に設計されているか。	履修要項等の各種データ	特になし。	特になし。（前年度報告のとおり、本専攻は教育課程編成・実施の方針に基づき、児童学に関する高度な専門性を身につけることのできる教育課程を編成している。3つの分野によって構成され、各分野において特論・実習を開講し、児童の心身の発達や健康、児童の生活・文化について科学的に捉え、発達支援・子育て支援のための方法や理論、あるいは児童文化活動における表現力などを学べるようにカリキュラムを体系的に編成している）	大学院改革に向けて、同一研究科の他専攻の教員とも連携し、問題意識の共有と課題の検討をしながら、カリキュラムの設計に関する取り組みを継続していく。学部の改組作業部会等で、随時問題提起をしていく予定である。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
4	DP に沿って設定された各学位プログラムレベルにおけるカリキュラムについて、適切に実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 履修状況等の各種データ 大学院アンケート結果 	2022 年度は院生の在籍がなく、アンケートデータがないが、2021 年度の大学院アンケート結果では、「授業内容」「授業レベル」「満足度」について高評価が得られた（いずれの項目もほぼ 100%が 5 点満点中 4 点以上で評価）。本専攻は 3 分野を設け、専門的職業人や研究者の育成を目指した多様なアプローチを行っている。このことが、教育内容や授業レベルのアンケート結果に反映され、効果が得られたものと思われる。引き続き、各種取り組みを継続していく。	学修成果の可視化の取り組みが不十分である。	全学的に大学院の学習成果の可視化に取り組む必要性を踏まえ、専攻内でも学習成果の可視化の取り組みを検討する。
5	学修成果の到達度の把握はどのようになっているか。	学修成果把握の取り組み等 大学院アンケート結果	院生数が少ないため、一般化することは難しいが、修士論文（研究）については、概ね DP を達成できている状況であるため、一定の質は保証できていると認識している。	学修成果の可視化の取り組みが不十分である。	全学的に大学院の学習成果の可視化に取り組む必要性を踏まえ、専攻内でも学習成果の可視化の取り組みを検討する。
6	各科目の成績および論文・研究が適切に評価されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価に関する取り組み等 大学院アンケート結果 	大学院アンケートは研究科毎の結果が公表されないため、明確なエビデンスを有していない状況である（加えて、昨年度は院生の在籍もなかった）。その上で、一昨年度に在籍していた院生の修論については、修論公聴会に出席したいずれの教員からも、一定の評価を得ており、評価に一貫性が見られたことから、適切な評価の取り組みがなされていたと判断する。	特になし。	特になし。
7	職位構成・年齢構成のバランス、非常勤比率に留意し、かつカリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 所属教員の状況 科目群別非常勤比率 	専攻を担当する専任教員においては、50 歳代以上が半数を超えており、職階も教授に偏っている。また、一昨年度までは性別構成のバランスがとれていたが、複数の女性教員の退職後の後任が採用されていないことから、過半数 63.6%、40 歳代 18.2%であり、男性比率が大きく高まっている状況である。学部改組・大学院改組を控えていることから、同一研究科の他専攻の教員とも連携し、調整をしながら各属性バランスの 均衡を考慮した採用計画を進める。非常勤比率については、過去 4 年間に、最大で 8 ポイント近くも非常勤比率が低下しており、大いに改善が見られる。	教員構成に偏りがみられることから、中長期的に教員構成の是正が必要である。	教員の属性や研究領域のバランスは、今後の中長期的な教員採用計画に関わる重要事項である。大学院の改組も見据えて同一研究科の他専攻の教員とも連携し、教員組織の計画を検討する。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
8	課題認識および外部環境を踏まえた独自のFD活動を実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・FD 取り組み状況 ・前年度点検シート ・点検・評価課題に対する向上・改善施策 	課題に対してのFD研修を行っている。しかしながら、「定員充足率を上げる」という重要課題については改善に至っていない。大学院改組を視野に、同一研究科の他専攻の教員とも連携し、問題意識の共有と課題の検討をしながら、引き続き取り組みを進める。	同一研究科の他専攻の教員とも連携し、特に「定員充足率を上げる」ための方策について検討することが課題。	専攻内で引き続きFD活動を実施していく。それとともに、学部・大学院の改組作業部会等で随時問題提起をし、同一研究科の他専攻の教員とも連携していく。
9	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種データ 	特になし。	特になし。	引き続き定員未充足への対応を検討・実施する。 大学院改組の検討を進める。